

2010/06/18

学校図書館は、**読書センター及び学習・情報センター**として存在しなければならない。しかし現況は、学校図書館は一部の読書好きの子どものための貸本屋的な役割しか果たしていない。その原因と理由は何か、学校の組織、運営方法から考察する。

## 1. 学校の組織からみた問題点

### ①運営の基盤となる会議に図書館教育担当者が入らない。

図書館教育に力を入れている私学は、図書館教育担当者を運営基盤に入れている。また、学校経営案に図書館教育がきちんと盛り込まれている。

### ②図書主任は領域主任の扱い。

図書館教育について学校長はじめ教職員が無関心の学校が多い。また、図書館運営と図書館教育について、**伝達講習も行われない**ので、学校図書館は担当者の恣意に任されることになる。良心的な担当者の場合は学校図書館は活性化するが、そうでない場合は、施錠してあるのが常態、たまに開館する本好きの子どものための貸本屋的存在になっている。

身近な例では、天白区の某中学校では、司書教諭が交代し、昼放課と放課後に毎日開館が、昼放課だけ月・木開館に激減してしまった。

## 2. 学校運営からみた問題点

### ①行事に振り回され、図書館教育はおろか授業までおろそかになりがち。

各種式典、各種検診、予防接種、校外学習、環境デーイベント、スポーツ大会、稲武野外学習、修学旅行、作品展、体育大会、合唱コンクール、文化祭、老人施設訪問イベント、職場体験、三年生を送る会、学年レク等、年中、息つく暇なく行事を行っている。

### ②教員の意識も行事に偏りがち。

時間的にも意識的にも教員の意識のメインは、日常的には**授業、学級運営、生活指導**行事面では、稲武野外学習、修学旅行、スポーツ大会、体育大会、合唱コンクール、文化祭、職場体験、三年生を送る会、**殆どの教員の念頭に図書館教育はない。**

※行事の比重が重いので、必然的に教員の仕事は行事準備が主。甚だしい時には、行事準備の片手間に授業を行っている感がある。

※図書館利用指導を実施する学校は少ない。「**図書館利用指導**」という概念もない**教務主任**も多い。図書主任が申し出ても、**時間が取れない、と却下する学校**もある。

※**図書費を消耗品費**などへ**目的外利用**することが当たり前になっている。

### 3. 教員の資質からみた問題点

#### ①自由度の高い授業が出来る教員が少ない。

図書館を使う授業は、単に知識を注入し覚えさせる授業よりも自由度が高い。自由度が高い授業は、教員の能力が低い場合は授業をコントロールすることが出来ず、生徒は野放図に暴れ回る結果になる。

#### ②読書は国語科という思い込み。

朝の読書でさえ、自分は〇〇科だから関係ない、と公言する教員もいる。

朝読三悪

- ・教室に行かない。
- ・教室に行くが連絡事項を大声で伝え静寂を破る。
- ・読書せずに事務作業をする。

#### ③読書軽視の若手が増えた。

本を読む習慣のない若い教員が増えた。自身が読書しない教員は、子どもに読書指導ができない。教員が良書を紹介することは、生徒の読書の質を高める。更に、皆で本について語り合うことは、子どもの読解力を高める。

図書館を使う授業が活発に行われなければ、学校図書館は読書センターとしての役割しか期待されない。学校図書館が学習・情報センターとして機能していくためには、図書館を使う授業を行うことができる教員を育てることが大事である。また、学習・情報センターを必要とする授業で育った若手が、世界を相手に活躍できる学力を獲得していく。